

公民科 学習指導案

1. 日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限
2. 科 目 公共
3. 学年・組 第2 学年〇組
4. 単 元 大項目 B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち
法の働きと私たち
使用図書は、教科書：『公共』（東京書籍社）

5. 単元の目標

(1) 【知識及び技能】

司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。

(2) 【思考力、判断力、表現力等】

法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に多面的・多角的に考察したり、協働して構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

(3) 【学びに向かう力、人間性等】

司法に参加するうえで大切なことは何かについて、多面的・多角的に考察した内容を他者と共有することを通して、他者の意見を聞き視野を広げ、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

6. 教材観

法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる諸問題について取り扱う。現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについての理解につなげる。また、平成 16 年 5 月 21 日に裁判員法が成立し、平成 21 年 5 月 21 日より国民が刑事事件に裁判員として裁判に参加する裁判員制度が始まったことから、単元の終わりに模擬裁判を課題として設定し、人が人を裁くことの難しさや重大性を自覚させ、その後の実生活に活かすことができるようにしたい。

7. 生徒観

略

8. 指導観

単元の終わりに課題として設定した模擬裁判の実施に向け、まずは必要な事柄である法の種類と成立過程、司法権の特徴、裁判の仕組み、私法の意義、消費者の権利や責任などについての概念を説明する。その後、生徒自身が実社会に落とし込み、身近に考えることのできるようなワークを実施し、自分の考えを表現したり、他者の意見を聞き思考を深めたりすることができるように指導していく。そして、生徒自身が今後関わることもあり得る「裁判員制度」に関して、司法参加の意義を理解できるようにするために、模擬裁判を通して、司法に参加するうえで大切なことは何かについて、他者の考えを踏まえ、自分の考えをまとめながら、実社会に活かすために自分自身ができることについて考えられるようにする。

9. 単元の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
・司法参加の意義やそれに関わる事柄や課題を理解している。 ・法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現されることを理解している。 ・社会の秩序が形成維持されていく過程や理論をまとめる力を身に付けている。	司法参加の意義について、法、政治及び経済などの側面を関連させながら、事実を基に協働して考察したことを、論拠をもって表現することができる。	司法に参加するうえで大切なことは何かについて、他者の意見を聞き視野を広げ、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画（全9時間）

○：総括的評価（記録に残す評価）
●：形成的評価（指導に生かす評価）

時	◆学習内容・学習活動	評価の観点			評価規準【観点】（評価方法等）
		a	b	c	
第1時	◆法と社会規範の役割とは？ 法の役割や分類、性格を理解し、それを基に法や社会規範がなぜあるのかを考える。	●	●		法の役割や分類、性格を理解している。【a】（観察） 法や社会規範の機能や役割を考え、「法がないとどのような社会になるのか」という問いに対して、自分の考えを表現している。【b】（ワークシートの記述）

第2時	◆法は裁判においてどのように適用されるのか？ 法が成立する過程や法と裁判との関わり、裁判のしくみや制度について理解する。	○		法の成立過程について、なぜこのような過程を経るのかを理解している。 【a】（ワークシートの記述） 裁判のしくみや制度から、裁判が公正・公平であることの重要性を理解している。【a】（観察）
第3時	◆私法の役割と意義とは？ 私法の役割と原則、過失責任の原則について理解するとともに、それらを現代社会と関連付けて考える。	○	●	私法の役割と原則、過失責任の原則について、なぜ必要であるのかを理解している。【a】（ワークシートの記述） より身近な私法の役割や原則を実社会と結び付けて考えようとしている。 【c】（観察・メモ）
第4時	◆自立した消費者となるためには？ 契約の種類や原則、消費者の権利や責任を知り、自立した消費者としてどのように行動すべきかについて考える。		○	消費者の権利や責任などの知識をもとに、自立した消費者として私たちができることや、会社や企業ができることを考え、それを表現している。【b】（ワークシートの記述・グループワークでの発言）
第5時	◆司法はどのような役割をもっているのだろうか？ 司法権の特徴や裁判制度のしくみを理解するとともに、公正な裁判を保障するために司法はどのような役割をもっているのかについて考える。	○	○	司法権の特徴や裁判制度のしくみを理解している。【a】（ワークシートの記述） 公正な裁判を保障するために司法はどのような役割をもっているのかについて考えている。【b】（ワークシートの記述）
第6時	◆社会秩序を維持させるためには？ 刑事手続きの流れや、刑事司法の課題を踏まえ、司法へ民意の反映を実現するためには、どのようなことができるのかについて考える。		●	刑事手続きの流れや、刑事司法の課題を踏まえ、どのようにすれば司法へ民意を反映させることができるのかについて考えている。【b】（観察）
第7時	◆裁判の判決を考えるために必要なこととは？ 1つの刑事事件をもとにした模擬裁判の準備を行い、これまで学んだ知識を活用して模擬裁判の判決について自分の考えを整理し、結論を考える。		○	これまで学んだ知識を活用して模擬裁判の判決について自分の考えを整理し、結論を出している。【b】（ワークシートの記述） 自分で考えた結論だけでなく、他者の反論などに対して、どう論理的に回答するかを考えようとしている。【c】（ワークシートの記述）
第8時 (本時)	◆人が人を裁くことの重大性とは？ 前時に準備したワークシートを用いて、「検察側」と「弁護側」に分かれて模擬裁判を実施し、模擬裁判の判決についての自分の意見を論理的に表現し、他者の意見を聞き、班で1つの判決を出す。	○	●	・模擬裁判の判決についての自分の意見を論理的に表現し、他者の意見を踏まえてより適切な結論を考えている。 【b】（ワークシートの記述） ・他者の意見を聞き視野を広げようとしている。【c】（観察）
第9時	◆司法参加の意義とは？ 模擬裁判を振り返り、司法に参加するうえで大切なことは何かについて自分の考えをまとめる。		○	模擬裁判を振り返り、司法に参加するうえで大切なことは何かについて、他者の意見を聞き視野を広げ、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。【c】（ワークシートの記述）

11. 本時（第8時）の展開

（1）本時の目標

模擬裁判の判決についての自分の意見を論理的に表現し、他者の意見を踏まえてより適切な結論を考えることができる。

（2）本時の評価規準

- ・模擬裁判の判決についての自分の意見を論理的に表現し、他者の意見を踏まえてより適切な結論を考えている。【b】
- ・他者の意見を聞き視野を広げようとしている。【c】

（3）本時の準備物

前回のワークシート、グループ用ワークシート、まとめ・感想用ワークシート、教科書、資料集

（4）本時の学習過程

時間	学習内容	生徒の学習活動	教員の働きかけや 生徒に投げかける問い	予想される生徒の姿	評価規準 (評価方法等)
導入 5分	・前回の振り返り ・本時の内容の確認	・ワークシートをもとに自分の考えや結論を振り返り、補足説明などを追記する。 ・班の形に机を移動させ、班の中で「検事側」と「弁護側」に分かれる。	・模擬裁判の進め方を説明する。	・疑問に思ったことや、説明でわからなかったことを質問する。	
展開 40分	・班で模擬裁判の実施 ・判決と判決理由のまとめ	・「検事側」と「弁護側」双方の意見を聞き、議論したいところなどをメモする。 ・先ほどメモしたことを踏まえて議論を行う。 ・班全員が「裁判員」となり、班の中で出た意見を整理し、班全体用のワークシートに班で考えた一つの判決と判決理由を話し合っ て記入する。	・相手の意見に反論するときは、相手自身を否定するような言葉はNGであることを伝え、論理的に反論するように声掛けを行う。 ・適宜、机間指導で議論が進んでいない班へ声掛けをしたり、聞き取った意見などを全体に紹介したりして、考えを深められるようにする。 ・実際の裁判員裁判を想定させ、一つの結論を出す時はできるだけ全員が納得したうえで結論を出すことを伝える。 ・どうしても判決と判決理由をまとめられない場合は、どちらも記入するように伝える。	・考えたことについて根拠をもとに意見を述べている。 ・話がまとまらない。 ・様々な考えを踏まえて班で一つの判決と判決理由をまとめようとしている。 ・一つの判決にまとめられない。	

	・全体発表	・発表者を一人決めて、班でまとめた判決と判決理由を発表する。質問などが出た場合は答える。	・自分の後の班に対して必ず質問できるように声掛けを行う。 ・答えられない質問などについて、教員で補足説明する。	・発表を聞き、他の班の意見をメモしている。 ・発表して終わったになってしまう。	
まとめ 15分	・ワークシートの記入 ・本時の振り返り	・ワークシートに他の班の意見をまとめる。 ・「模擬裁判に取り組んだ感想」と「裁判員裁判に選ばれたときに活かしたいこと」を記入する。	・各班の意見のまとめや今回の模擬裁判を行った意義などを話す。	・他の班の意見を踏まえて、学んだことを振り返り、次に生かそうとする。 ・他の事例について考えようと、裁判員裁判について調べる。	・模擬裁判の判決についての自分の意見を論理的に表現し、他者の意見を踏まえてより適切な結論を考えている。【b】（ワークシートの記述） ・他者の意見を聞き視野を広げようとしている。【c】（観察）

（５）観点別学習状況の評価の判断基準の設定（本時に総括的評価が伴う場合）

判断基準	「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）	努力を要する」状況（C）と判断する生徒に対する指導のてだて 
評価規準			
【b】	模擬裁判の判決についての自分の意見を論理的に表現し、他者の意見を踏まえて、より適切な結論を考えるとともに、実社会に活かすためにできることについて具体的に考えている。	模擬裁判の判決についての自分の意見を論理的に表現し、他者の意見を踏まえて、より適切な結論を考えている。	机間指導を行い、自分の考えがまとまらない生徒へ、他者の意見を聞いてどのように考えたかを問いかける。